

社団法人 東京都社会保険労務士会

中央支部会報

発行所 (社)東京都社会保険労務士会中央支部 発行人 小山 昇
東京都中央区日本橋室町1-14 TEL (241)1558 編集人 清水誠三郎

新年のごあいさつ

中央労働基準監督署長

永田 秀太郎

明けましておめでとうございます。

昭和50年の新春を迎えるにあたり、心からおよろび申し上げます。

平素私共の行政に寄せられております深いご理解とご協力に対しまして改めて感謝の意を表する次第であります。

ご承知のとおり昨年は増々多様化する行政需要に対応するため、労働安全衛生法の全面施行、労災保険法の一部改正、最低賃金の改正など労働基準行政の画期的な進展をとげて参りましたが、本年はこれらのものが定着し、その目的が達せられるよう努力する所存であります。

管内における昨年の休業8日以上の中傷災害は、1,610人で前年に比しおよそ6%の減少をみました。本年は人命尊重の観点から安全衛生を行政の最重点として取り組み、総合的な施策のもとで企業における安全管理体制の整備充実、安全衛生教育の徹底などをめざし、さらに自主的活動の促進を図りたいと考えております。また労働者の健康問題についても適切な対策を進めて参りたいと存じます。

労災保険につきましては、昨年末国会で給付の改善を中心とした労災保険法の一部改正が行われましたので、その適正な施行に力を入れて参ります。また、一般労働条件の確保及び最低賃金、家内労働などの福祉行政についても積極的に推進して参ります。

おわりに、本年も支部会員皆様のご指導とご協力をお願いいたしまして新年のごあいさついたします。

新春雑感

飯田橋公共職業安定所長

石坂 隆 叙

石油にゆれ動いた我が国の経済は引きつづいて、2年目をむかえました。果たして新年おめでとうと言つてよいのか迷いました。長期的にみて労働力の不足基調は変わらないとしても職業行政には、景気は敏感にひびいてまいります。この時期を第三の開国「一つは明治の開国、二つは終戦后」と言つた方がおります。この非常時を、心をひきしめて乗り切つておめでたい年にしたいと願ひして、やはり新年おめでとうと申し上げます。

新しい手帳の中にこんな字句を見つけました「時間は蓄積することはできない一日、一時間、一分をどのように活かすが、人生の勝敗のわかれ道である」と。日本人は働きすぎるなどよく言われておりますが、働きたくとも、働く場のない方もおります。景気低迷でしよわせの、身障者や高令者の雇用について、格別の御協力をお願いする次第です。

失業保険法は抜本的に改正され、時勢に即応して新しい雇用保険法として、生れ変わりました。この法の運用についてはまた深い御理解と御力添えを、願ひすることになります。

職業安定所の役割りは景気的好況不況に夫々の時に応じた責務を果しておりますが、特に不況時の雇用の安定には重大な使命を負っております。

皆様の絶大な御協力を重ねて願ひする次第です。終りに会員各位の御健勝と企業の御発展を心からお祈り申し上げ新年のごあいさついたします。

労政事務所の窓口から

東京都中央労政事務所長

鈴木 正 五

スタッグフレーションとマイナス成長という空前の不況のなかで新年を迎え、労政事務所の相談傾向をご紹介しますこともより有意義かと考えご挨拶にえさせていただきます。当中央労政事務所の相談は48年約2千件でしたが49年は約3千件となり、また労使の相談対比は6対4から5対5となり急増いたし、時勢を反映いたしました。そのなかで2、3の傾向特色をご紹介します。

その1は、相談内容が具体化、複雑化してきており、例えば就業規則、協定書の解釈にからむトラブルについての相談が目立ちました。このことは、従業員、組合員が至極合理的に割り切ったドライな姿勢で物を見るようになってきたこととともに、従来の「話せばわかる」式の親方日の丸的な労使関係は通用しなくなったことを示唆しているようです。

その2は、経営者の不用意な発言により起った相談です。これらは、管理者が従業員の心を把握しないまま、発言し、従業員なり組合の反発をかい、ひい

ては勤労意欲を殺してしまった例です。たしかに不況のなか管理者は企業の資金繰り等に追われ、人間関係を目を向けるゆとりがないことはわかりますが要はリーダーシップの欠如ということにつきるものです。中小企業は大企業に比し管理上のスパーン（掌握範囲）は少なくリーダーシップを発揮することは容易なはずですし、時間的ゆとりがないならアシスタントである監督者を信頼しゆだねるべきではないでしょうか。

その3は、労働組合結成についての相談が労使とも非常に多くなっております。中小企業における組合結成率は未だ低いことは確かですが、不況、インフレのなか労働者の組合結成の気運は当然たかまっております。組合結成に当り、労使間のイタズラなトラブルにより従来から培ってきた人間関係を一挙に壊すことのないよう切望して止みません。

スタッグフレーションの波のなか、中小企業の労使関係は、益々複雑な要素を内包してきております。

当所としては、改築を機に4月から労働相談コーナーを発足させ、微力ながら労使関係の健全化と近代化の一助に努めていく所存であります。貴会におかれても拙文の意を汲まれご尽力あらんことをお願いし、併せて貴会員のご活躍をお祈り申し上げます。

新年のごあいさつ

支部長 小山 昇

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、皆様のご健勝とご清栄を、心からおよこび申し上げます。

さて、最近の経済情勢は、石油ショック以来、深刻化する不況、物価高、資源不足などによる影響で、過去の高度成長はマイナス成長を現象化し、さらに今後は、低経済成長を基調とした、経済運営に転換せざるをえない状況が、極めて現実となっていました。このような状況下で社会現象の一端としての雇用事情は、昭和49年11月現在、不況によるレイオフ、人員整理なども、いよいよ常用労働者に波及し、有効求人倍率も0.87となり、求人の大巾減と求職者の急増を反映しており、又賃金面においても実質賃金は、物価上昇と残業カットによる残業手当の急減で3.1%減と雇用情勢を悪化させています。すなわち、「不況と物価高」が国民生活の不安に強くつながっておるわけです。

このような経済社会の状況下で政府は、賃上げの自粛、物価の安定、福祉の充実などを中心に、イギリスで行なわれた「社会契約」を提唱し、社会的公正予算を背景に、勤儉政治を進めるかまえをみせております。一方、経営者団体においては、「経営参加」の提言、賃上げ15%をガイドラインとしており、又労働側では、25～30%の賃上げを掲げ、弱者救済はもとより、社会的な不正を正すべき姿勢を示しております。

このような現況は、春闘において非常に緊迫感を強め、長期化が予測され、社会不安がつり、暗いトンネルに突入するような、灰色の時代を感じさせます。このような時代の激変に私達社労士は、専門分野である、中小企業の労務管理の相談に充分応え、わが国の経済社会の円滑な運営の一端に寄与すべく、能力開発に大いに研鑽努力し、社労士法第一条のなかでの「事業の健全な発達と、労働者の福祉の向上に資する」ことを目的として、全力を奮い早く暗いトンネルから脱出し、希望ある人間性豊かな社会造りに功献しようではありませんか。

使命の一端を述べ、ごあいさつとする次第です。

年頭のご挨拶

目 黒 健

無 題

山下大九郎

中央支部会員の皆様新年おめでとうございます。

高度成長時代と異なり、1975年の幕明けは不安と焦燥のとばりに包まれた、名状し難い不気味な新年ではないでしょうか。私も新春の屠蘇を祝いながら私たちをとりまくもろもろのことについて、来し方、行く末をとつおいつ考えてみました。

この動乱様相は一時的現象ではなく、行き着く先は政治経済の構造改革だとか、社会変革だとか、資源濫用、環境破壊の報いで数年先の食糧、資源の確保も、環境保全も困難な日本滅亡のパターンだとか。そのような次元の高い論議はさておき、私たちを頼りにしている小規模企業が、この指標欠落の時代に当面どう対応して生き延びて行くのかという問題に取り組まなければならない峻烈な現実を想うとき、ともすればたじろぎ勝ちとなるのを禁じ得ません。私たち社会保険労務士が緊蹙一番思考し、行動しなければならないときに立ち到ったようです。

このような現実を踏まえて“ザル法返上の社会保険労務士法改正”“資質向上”は焦眉の課題と考えますが、これは私たち社会保険労務士の相互理解と連帯が基盤になるものと考えます。私はフォード合衆国大統領の就任演説の一部を借用して、中央支部会員諸士が積極的かつ末ながくこの基盤を深かめて下さることを呼びかけて、新年のご挨拶といたします。

いわく、“われわれの会（行政府）はコミュニケーション、融和、妥協、協力に基づいている。”

一昨年来のインフレと不況下、新しい昭和50年を迎えました。田中さんの引退、三木内閣の成立と共に列島改造から中立財政へと変化して来ましたが、大蔵省、日本銀行の金利現状維持の物価安定、インフレ抑圧政策の方針から当分景気上昇は望むべくもない状況と思われます。好むと好まざるとにかかわらず、会社構成の変革をせまられ、不況下の人員整理という指向も見られるようになって来ました。

需要の低下と製品の滞貨から労働力の過剰という不幸な実情は、今後人事構成、労働条件、給与等企业組織の基本的要件を揺り動かすことは避けられないでしょう。

社労士業務の本来の姿勢として、職務分析、対人関係、労務診断及労務監査、作業条件、賃金体系等受託事業所との間に、より密接な信頼関係を保ちつつ、指導してゆくことが必要となると思われます。

一事業主或は一労働者として、労使双方の立場から顧問先の業務発展を願うと同時に、社労士の資質向上のため努め、励まなければならない点が多々ある事を、肝に銘じて実践してゆきたいと思っております。

支 部 活 動

○新入会員

49, 7 飛沢孝治 TEL 551-0465 49, 11 田村 稔 TEL 265-2998
49, 8 新井福次 TEL 256-4451 49, 11 雨宮 功 TEL 861-4845

○退会々員

49, 6 安心院敏幸

○支部功労者

49, 12, 6 月例会に於いて、前支部長他支部功労者に対し、感謝状並びに記念品を贈呈した。

○幹事会、月例会、研究会

予定通り幹事会、月例会並びに研究会を開催し、会の運営についての報告や、会員相互の意見交換、勉強会を実施し資質の向上に努めた。研究会は、50, 1, 10の月例会に引き続き開催され、5回にわたる労働安全衛生法の骨子を研鑽した。

福祉国家の夢

三 木 五 郎

高度成長よ、さようなら。安定経済よ、ここにんわ。——ふと、そんな声がささやかれたことしの幕明け。昭和47年以来世界的な不況と、1昨年の石油危機がもたらした異常な原料高は、わが国の経済体制に測り知れない打撃を与え、極度の金融引締め政策にも拘らず、物価はウナギ上りに高騰を続け、企業活動は窒息状態に陥っています。

もともと、安い資源の加工貿易をお家芸としてきた日本が、花も嵐も労基法も踏み越えて稼ぎまくったこの20年、その売上明細書が世界七不思議の一つに数えられる高度経済成長となり、GNP世界第二位の奇蹟となって現われたのですが、ここで華やかな舞台は一転、日本熱学工業を皮切りにヤシカ、大和毛織、東京時計製造、三省堂など大手老舗の倒産、セニョ・家電・不動産関係の操短・一時帰休・人員整理・採用手控えなどのハプニングが続発し、失業者も70万人を超え、有効求人倍率も遂に1を割る事態が生ずるに至りました。

しかも、さらに行く手には厚い鉛色の不況の雲がひょうひょうと鳴り渡る北風のさいはてまでもひろがりを見せ、かつて第1次世界大戦后ドイツを襲った経済恐慌の嵐の前夜にも似た重苦しい空気が漲っています。これまで、高賃金の時代には失業者も少ないという総評の信条もフィリップス曲線もすでにくつがえされ、いま修正を余儀なくされつつあり、しかも現下のスタグフレーションがますます拡大の趨勢を辿っている点は極めて気になることです。

では、これから日本の生きていく途は……。答えはひとつ、忘れ去られていた社会保障の充実です。だが、国のとなえる高福祉高負担の原則は、従来わが国では食乏人高負担の弱者いびりの麦メシ政策に片寄る嫌いが多分にありました。たとえば、大企業の組合健保と中小企業の政管健保と零細業者の国民健保の三者における負担と給付の大きな格差、生活保護その他各種年金の余りの低額、身障者や母子家庭、孤老生活者へのお寒い援護措置やら施設の不備など。または、企業内労災補償制度と法定給付額の雲泥の相違、持家融資にしても大企業は4LDK、中企業は2DK、小企業は三界に家なしの差で、そこには福祉以前の「強者の権利」がのぞかれます。

ユリカゴから墓場まで、のスウェーデン、デンマー

クには及ばないまでも、この低所得者への冷遇と片手落ちの行政を、ことしこそ改めて見直し、少なくともこんにちの高所得者高福祉の誤まった体制から早く脱して、真に公正な福祉政策を展開すべき年だと痛感します。熱砂のアラブ産油国では、稼いだオイルダラーで立ち遅れた社会保障の充実に着々乗りだしているとか。昭和後半世紀を前に日本でも、もはや虹となって消え失せた高度成長の架け橋に見果てぬ夢を追うのではなく、振る舞い酒の醒めたところで、金の亡者が幅をきかした産業構造に別れを告げ、本来の近代民主国家のあり方に目を転じ、バラ色の安定経済の心臓部に、列島改造論で敗れた角さんと故障続出の新幹線に代って「福祉」という大動脈をブツ建て、未来永劫の国利民福を図るべきであります。

その重責をになう旗手こそ、われわれ社労士だと書き足したら、ドデカイ夢とお笑いでしょうか。

古い切手の蒐集

清 水 誠 三 郎

「古い切手で愛の手を」といったことに心をひかれたわけでもないが、古封筒を点検せざるを得ない事態がおき、その時古切手を蒐集し、そしてこれが役立つならば一石二鳥だと考えて、古切手蒐集を始めた次第です。

所がある日、雑誌に「1億枚の古切手を蒐集し、陽の当たらない心身障害者のために愛の手を差しのべたいから協力して欲しい」との記事を見て、1体1億枚の切手とはどの位の数字なのかと考えだし、1ヶ月1,000枚で1年12,000枚、10年で、100年でと数えてみたら、とても大変なことに気がつきました。1人ではどうにもならない数字にいどむには、数を頼むより仕方がないと、方々に依頼し、先ず10万枚を送ってあげる決心をしました。

それから5年5ヶ月という歳月で、10万枚を達成し、次の10万枚に挑戦しています。昨年末で、13万枚。あと7万枚は幾年か、るか、又達成できるかどうかと毎日を楽しみ乍ら古切手を蒐集している現状です。先般、京都にいるその友人を尋ね、頑張ることを誓ってきました。

各員各位、もし古切手が目にとまったら、切り取ってお送り下されば望外の幸せです。1枚1枚水の中に入れてはがし、同種類の切手を50枚ずつ束ねて整理し、送ることを楽しんでいます。